

柳原銀行記念資料館 20周年記念特別展

我ら、山水河原者の末裔なり

～芸大移転に寄せて～



曰某一心悲生于居家故物命誓不改之又財宝
心不貪之昔日於路上拾蚊帳四片某追其人

2017年 9月1日(金)～10月29日(日)

午前10時～午後4時30分、月・火・祝休日休館

【特別展示】入場無料 (展示替休館日：8月30日、31日、11月1日、2日)

記念シンポジウム 入場無料 (定員60名、会場での先着順)

10月28日(土) 午後5時～午後7時 (午後4時30分開場)

崇仁船鉾保管庫 (河原町塩小路下路西側すぐ)

【基調報告】山内政夫 柳原銀行記念資料館 事務局長

「我ら、山水河原者の末裔なり～芸大移転に寄せて～」

【講演】中村伸之 ランドスケープアーキテクト (景観設計家) 「自然という異界と交わる」

佐藤知久 京都市立芸術大学芸術資源研究センター准教授 「アーカイブと歴史的想像力」

講演の後、上記3氏によるパネルディスカッションを実施

同日10月28日開催!

高瀬川音楽祭 2017

(崇仁エリア) 入場無料!

定員60名 (会場での先着順)

午後3時～午後4時30分 (午後2時30分開場)

柳原銀行記念資料館前 (京都市下京区下之町6-3)

京都市立芸術大学生による演奏

主催：高瀬川音楽祭2017実行委員会、高瀬川開削400周年記念事業事務局

問合せ先：高瀬川音楽祭実行委員会 (takasegawaongakusai@gmail.com)

上：享保廿年古絵図改正絵図 (部分)
1857 (安政4) 年 西光寺 (崇仁) 所蔵

右：山水河原者・又四郎の言葉
『鹿苑日録』1489 (延徳1) 年6月5日の項より
東京大学史料編纂所所蔵謄写本

柳原銀行記念資料館

The Bank of Yanagihara Memorial Museum
京都市下京区下之町 6-3 <http://suujin.org/yanagihara/>

主催：京都市

NPO 法人 崇仁まちづくりの会
協力：西光寺 (崇仁)



京都市
CITY OF KYOTO

我ら、山水河原者の末裔なり ～芸大移転に寄せて～ ごあいさつ

被差別マイノリティによる世界初の人権宣言といわれる「全国水平社創立宣言」には「兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、実行者であったのだ。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者であったのだ。」とあります。全国水平社の創立者達は祖先のことをこのように認識していました。

当館がある地域は銭座跡村と呼ばれ、1731(享保16)年に天部村(現在の東三條)の最大の実力者である天部村年寄源左衛門により開発されました。今回初公開する下京区の西光寺所蔵の絵図には、支配人源左衛門の名が鮮明に書かれています。

天部村は中世末以来の山水河原者※の実力者下村氏の出身地でありました。下村氏は寛永年間(1624～45)二条城掃除役を勤め、「かわた頭」※として役料109石余の知行を受けるほどの実力者であり、庭作りの河原者を動員して、二条城の作庭にあたった人物であると考えられています。また、下村氏は六条村(崇仁北部)にも掃除役を命じ、六条村年寄嘉兵衛は自らが役目を記した「諸式留帳」で下村氏を祖先と認識しています。

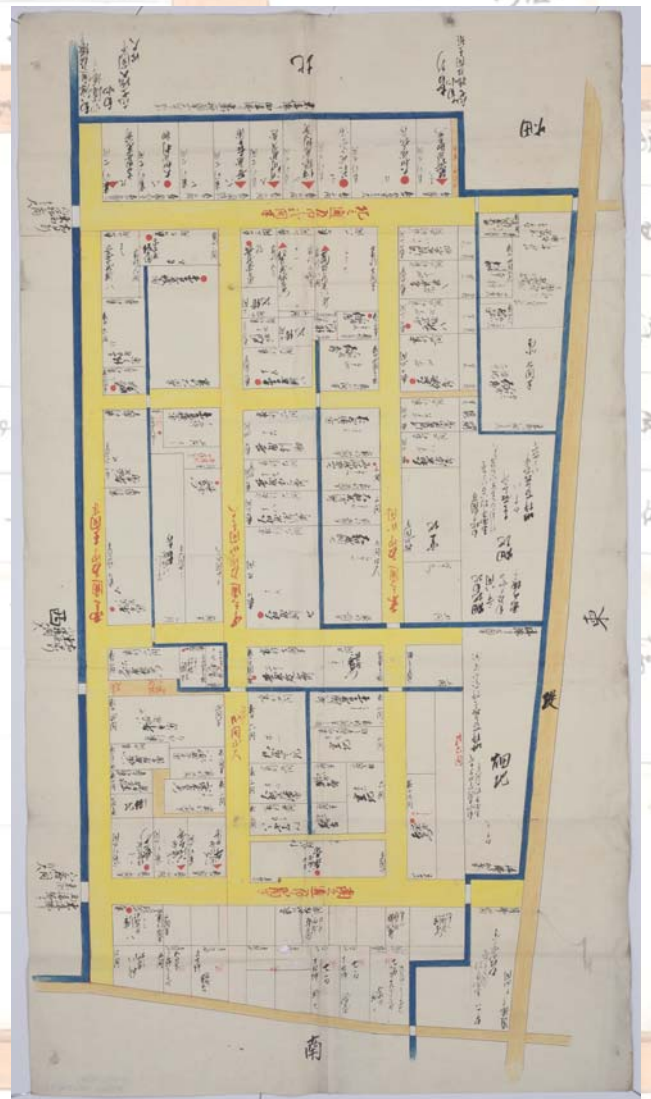
代々の源左衛門たちは天部村年寄及び銭座跡村支配人として、封建社会の中でかわた身分の権益を守るために、時には厳しい差別を受けました。1708(宝永5)年に下村氏が後継者不在のため幕府により断絶させられると、下村氏に代わって天部村・六条村等が中心となって町奉行の下で「かわた頭」となり、触頭※・役人村※としての立場を強めました。

そしてこの六条村は同年9月、七条河原での勧進大相撲※の興行で、櫓銭(芸能興行の入場料)十分の一を受け取った事例や、「柳原町史」にも「本村(六条村)は往時(昔)より勧進能※・同相撲・芝居等の櫓銭の収入ありて、年寄の得益とす」とあることから、様々な芸能との関わりがあった地域であると言えます。

明治時代、柳原銀行を創立した明石民蔵、町民に敬慕された桜田儀兵衛、貧民教育に生涯をかけた玉置嘉之助柳原小学校長、彼らの祖先は銭座跡村の有力者であり、代々の源左衛門と深い関わりがありました。彼らは差別の厳しい中にあっても、開かれたまちを作ろうと「柳のけふる春の朝、月の冴えたる秋の夜、あそびにぎませ四方の人」と柳原町歌(玉置嘉之助作詞)を歌いました。

自然と歴史の豊かな高瀬川が流れる崇仁地域に京都市立芸術大学が移転することとなり、このまちに「四方の人」が遊びに来ることを願って、崇仁では「京都市立芸術大学を核とする崇仁エリアマネジメント」を始動しました。かつての山水河原者の地が、芸術や文化、歴史にあふれたまちとなり、新しい京都の顔となればと思います。

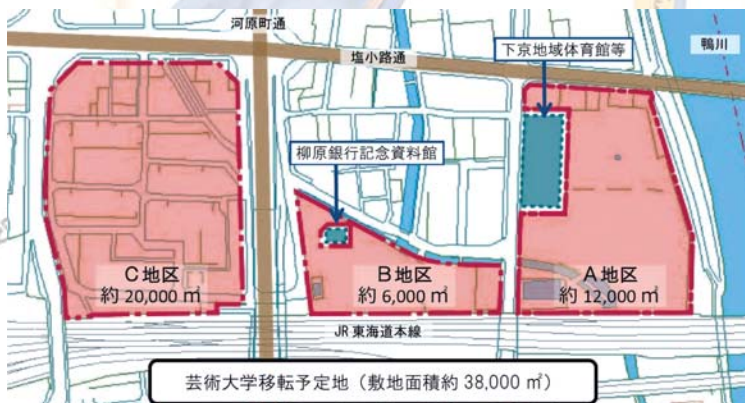
今回が初公開の西光寺所蔵の絵図や、昨年の特別展で御紹介した「今村家文書」をもとに、山水河原者をはじめとした河原者の携わった芸能とも深い関わりのあったこの地と人々に焦点を当て、「柳原銀行記念資料館 20 周年記念特別展」を開催します。



銭座跡村出村絵図 1872(明治5)年 今村家所蔵

- ※ 山水河原者：河原者と呼ばれた中世の代表的被差別民のうち、作庭などの技術を業としていた人の呼称。
- ※ かわた頭：被差別民を統轄する頭領。徳川政権では東国では長吏頭、畿内では機多頭と称された。
- ※ 触頭：奉行所の命令を伝える責任者。
- ※ 役人村：町奉行から牢内外番・断罪・犯人逮捕・警邏等の仕事を命ぜられた村。
- ※ 勧進大相撲・勧進能：寺社の建立、改築などの際に寄付を募るために、入場料を取って行われた田楽や猿楽や相撲の公演である。

■表紙の言葉について：山水河原者である又四郎は、庭師・善阿弥の孫で、銀閣寺庭園などを手がけた。「曰く、それがし、一心に屠家(とか)に生まれしを悲しみとす。故に物の命は誓うてこれを断たず、又財宝は心してこれを食らず。昔日、路上に於いて蚊虻(かや)四、五片を拾う。某、其人を追いてこれを与う。」『鹿苑日録』は京都相国寺の塔頭・鹿苑院の歴代僧侶の日記。



京都市立芸術大学移転整備基本計画(2017年、京都市)



柳原銀行記念資料館 開館時間 10:00 - 16:30 [月・火・祝休館]
入館無料 TEL&FAX 075-371-0295 <http://suujin.org/yanagihara/>
・京都駅(JR、地下鉄)から東へ徒歩約8分
・市バス 205・17・4系統「塩小路高倉」下車
・駐車場はありませんので、公共交通機関を御利用ください。



同じです あなたとわたしの 大切な
平成 29 年 8 月発行
京都市文化市民局くらし安全推進部人権文化推進課
京都市印刷局 第 294426 号